



小学6年生のとき、第1回宇陀市子ども議会に副議長として参加しました

動にも挑戦し、中高生のための学びと成長のためのサイト「校外プログラム大全」の運営兼ライターとして活動しています。私は主に、プログラム参加やボランティア活動をしている高校生を紹介する記事を担当しています。取材を通して、全国の様々な分野で活躍している高校生と交流することは、自分自身にとってとても大きな刺激で、自分はまだまだまだと気づかされる日々です。

私が文学賞を受賞したことを掲載した新聞記事を読んで、市内のご年配の女性が私の学校に手紙を送ってくださいました。「新聞記事を読みながら、すっかり夢中になりました。そして作品を読んで、とても心に沁みました」と書いてくださっていました。そのお手紙を読んで、とてもうれしい気持ちになり、これからももっといい作品を書いていきたいと思いました。

### オリンピックへの思い

コロナウイルス感染拡大のため、オリンピックが延期されました。一度は聖火リレーが中止になるとの報道もあり、本当に残念な気持ちでしたのですが、延期され、来年改めて走らせていただけることになり、と

はじめは、ただ驚きしかありませんでした。自分にいったい何が起きているのか、理解するまでに少し時間がかかりました。が、じわじわと喜びに変化してきました。友達や学校の先生はもちろんのこと、地元の方からたくさんのお祝いの言葉をいただきました。また、自分が今まで取材をした全国の高校生からも、おめでとうのメッセージをもらいました。

なんの変哲もない高校生の自分が、宇陀市代表の聖火ランナーという大役を務めさせていただいていいのかわ、不安になっていたときもあるのですが、皆さんの応援にお応えできるよう、精いっぱいがんばる覚悟です。

### 聖火ランナー宇陀市代表として決まったとき

これからも「文章を書く」という作業を通じて、多くの皆さんに感動していただいたり、お役に立てていただければ、うれしいです。



双子の姉 衣濃理さん（左）と一緒に

宇陀市の皆さんの代表として、聖火ランナーを務めさせていただくことになりました。

こんな大役をいただき、本当に光栄です。私は宇陀市の皆さんに育てていただきました。本当に感謝しています。

こんなちっぽけな私ですが、しっかりと勉強して、社会を知り、世界を知り、少しでも影響力の大きな社会

### 市民の皆さんに感謝

でもありがたい気持ちでいます。オリンピックは、平和の祭典です。しかし、多くの方がコロナウイルス感染のため、健康や生活が脅かされ、つらい日を送っている現状は、とても平和とは言えません。1日も早くコロナが終息し、世界が平和で笑顔に戻れるよう、願ってやみません。



姉衣濃理さんから妹へメッセージ

無事に走ってくれさえすれば、それ以上に望むことはありません。聖火リレーの日は、おそらく沿道で応援すると思いますが、自分のことのように緊張すると思います。宇陀市の皆さんの代表として、しっかりと、そして笑顔で走ってほしいです。

人となつて、将来は宇陀市をもっと日本中・世界中に発信したいという野望を持っています。

聖火リレーの日は、宇陀市の皆さんへの感謝の気持ち、そして世界平和と幸福への願いを込めて走ります。もしよかつたら、応援に来ていただければ嬉しいです。

どうぞ、これからもよろしくお願ひいたします！



# オリンピック聖火リレーを通して

4月13日に東京2020オリンピック聖火リレーが宇陀を駆け巡る予定でしたが、東京2020大会の延期の決定を受け、聖火リレーも延期となりました。今回のキラリうだ人では、今回聖火リレー宇陀市代表に選ばれた大家さんと、56年前の東京オリンピック1964で聖火ランナーに選ばれた水野さんに聖火ランナーとしての思いをお聞きました。

聖火ランナー宇陀市代表  
おおいえ いおり  
**大家 衣濃理さん** (高校2年生)

高校では、生徒会広報役員を務める。部活動は日本文化研究会に所属し、文芸・文学作品づくりに励む。

**【受賞歴】**

- ・全国児童才能コンテスト作文部門 3年連続入賞
- ・「北方領土と私たち」作文コンクール 特別賞 (奈良県1位)
- ・北方領土に関する全国スピーチコンテスト 審査委員特別賞 (全国4位)
- ・第10回 田辺聖子文学館ジュニア文学賞 最優秀賞
- ・第11回 田辺聖子文学館ジュニア文学賞 佳作
- ・税についての作文 近畿納税貯蓄組合総連合会会長賞
- ・人権作文コンテスト奈良県大会 優秀賞

文部科学省官民協働「トビタテ!留学 JAPAN」5期 日本代表

### 感動してもらえ文章を書きたい

中学1年生のときに、国語の先生が「日本文化研究会」という同好会を立ち上げられました。「カルタ部門」と「文芸部門」があり、その先生から「文芸部門で活動してみない？」とお誘いを受けて入部したことが、文学文芸作品をつくることになったきっかけです。もともと文を書くことは嫌いではありませんが、得意というわけでもなく、なかなか自分の納得のいく作品が書けず、半泣きになりながら書いていたこともあります。書いては消し、消しては書いてを繰り返し、やっと完成した作品を多くの方に読んでいただけただけでなく、身に余る賞をいただき、本当に感謝しています。

現在は、「情報を伝える」という活



## 56年前の -水野さんと 東京オリンピック 1964-



◀高校時代の  
水野さん  
毎日遅くまで  
棒高跳びの練  
習に明け暮れ  
ました



▲前のランナーから引き継ぐ様子  
(左：水野さん)



◀開会式2か月前の8月21日に、ギリシヤから引き継がれた本聖火リレー水野さんが走ったコース



▲当時のトーチ



人生を変えた経験

最初は、就職希望でした。陸上部を続けながら、高校3年間郵便局でのアルバイトもしておりました。父も郵便局で働いていたこともあり、高校卒業後は働こうと思いつく就職試験も受けていきましたが、オリンピックの聖火ランナーの経験もあり、あと4年間棒高跳びを続けたいと思い、聖火ランナーが終わってから猛勉強をして大学を受験しました。

大学へ入学し、競技をやりだしたら

つながる縁

今回の東京オリンピック2020の聖火リレーが宇陀市を駆け巡ると聞いて、何かの縁を感じました。

残念ながらオリンピックが1年延期されることになりましたが、日本のためにも世界のためにもぜひ開催してほしいと思います。

その後、高校の体育教員となり、3年間勤務しました。

私にとってこの経験は人生を大きく変え、現在は多くの教え子との出会いに感謝しています。



今回、多くの方から「聖火ランナーに応募してみたら」と声をかけていただきましたが、56年前に貴重な経験をさせてもらったので、より多くの方々にあの感動を経験してほしいと思い、応募しませんでした。

最後に県立大宇陀高校一世紀の歴史の中で、東京オリンピックの聖火ランナーとして一ページを飾ることができたことを誇りに思っています。

## うだ 人 特別編

- ・昭和37年に県立大宇陀高校に入学後、陸上部に入部。初めて棒高跳びに出会い、2年、3年と棒高跳びの県高校記録を作り、インターハイや国体に出場。
- ・昭和39年、東京オリンピック1964聖火ランナーとして国道24号線を走る。
- ・昭和40年、天理大学入学。卒業後は県立高校の体育教員として38年間務める。



東京オリンピック1964聖火ランナー  
水野 恒夫さん(大宇陀大東)

聖火ランナーとして走るようになったのは突然でした。高校3年生のときに、所属していた陸上部の顧問から聖火リレーで走るように言われましたが、オリンピックは当時の自分とはかけ離れたことだったので、あまり実感がありませんでした。6月に行われた陸上の近畿大会でケガをしてしまい、2か月間運動ができず、完治後すぐの聖火リレーとなりました。

当日はあまり緊張しませんでした。前のランナーから引き継いだ時、最後まで無事に走り切れるか、また雨も降っていたので、トーチの火が消えないか、次の人に引き継いだ時、火がつくか心配になりましたが、無事に引き継ぐことができたときには、今回の出来事が誇りに思えました。

昭和三十九年九月二十七日、小雨の降るなか、和歌山県から奈良県に聖火リレーが引き継がれ、高校三年生のとき私はトーチを持って1・9kmを走りました。

後ろに2人の副走者や、20人くらいの随走者とともに、旧橿原自動車学校前から国道24号線を北上し、橿原・田原本境界まで、沿道に集まったたくさんの人に見守られながら、歓声と拍手の中を走り切りました。

## できる限りの力を

高校に入学後、陸上部に入部し「棒高跳び」と出会いました。マイナーな競技でしたので、顧問の先生に教わるのではなく、独学で練習をしました。自分でやるしかなかったため、それをカバーするのは練習量。同じことを繰り返して覚え、学校に人がいなくなるまで練習をしました。現在のようにはマットなどが無い時代でしたので、砂場の土を掘り起こし柔らかくして、そこに着地したり、飛ぶ棒は竹を使用。何度も同じところを走るため、穴が開いてしまうので、その都度ならして練習しないといけなく、時間がかかりました。家の近くに水田があり、稲穂を干すさおを棒高跳びのバーに見立てて練習しました。

人の何倍も練習したことで、2年生の時の大会で、県高校記録を出し、3年生では、3m75cm(写真左)を飛ぶ



## 聖火ランナーとして

## 棒高跳びとの出会い そして、聖火ランナー